



2022年9月2日

各 位

会社名：株式会社じもとホールディングス
(コード番号：7161 東証スタンダード市場)
代表者名： 取締役社長 鈴木 隆
問合せ先：常務取締役総合企画部長 尾形 毅
(TEL. 022-722-0011)

「じもとグループ業績回復への取組み」の策定について

当社では、本日公表しました「2023年3月期第2四半期および通期連結業績予想の修正、並びに配当予想の修正、役員報酬の減額に関するお知らせ」に記載のとおり、2023年3月第2四半期および通期連結業績予想が、当初予想を大幅に下回る見通しであります。

今回の業績予想見直しを踏まえ、喫緊の経営課題に対して抜本的な改善策に取組み、早期の業績回復を実現するため、このたび「じもとグループ業績回復への取組み」を策定いたしました。

当社グループは、本取組方針のもと、各施策を徹底して実行することで収益改善を図るとともに、地元中小企業をはじめとするお取引先への支援にさらに取組み、地域の発展に貢献してまいります。

記

別紙：「じもとグループ業績回復への取組み」 2022年度業績見通しと業績改善策

以 上

じもとグループ 業績回復への取組み

2022年度業績見通しと業績改善策

2022年9月

株式会社 じもとホールディングス

目次

1.	2022年度第2四半期業績予想	・・・	3
2.	2022年度通期業績予想、配当予想、経営責任	・・・	5
3.	グループ業績改善への取組み	・・・	7
4.	2023年度収益見通し	・・・	14

1. 2022年度第2四半期業績予想（1）

・当社グループは、下記の理由により、第2四半期業績予想を下方修正いたします。

じもとホールディングス		(単位：百万円)
	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	2,000	1,300
今回修正予想（B）	▲1,700	▲4,900
増減額（B－A）	▲3,700	▲6,200
※参考 前期実績	2,395	1,604

- ・子銀行のきらやか銀行は、与信関係費用の増加、有価証券利息減収、店舗減損計上、繰延税金資産の取崩しで、第2四半期決算は赤字決算を見込んでおります。
- ・仙台銀行は、有価証券利息減収により、当初業績予想を下回る見通しです。
- ・以上により、グループ連結において、第2四半期は赤字決算を見込んでおります。

きらやか銀行		(単位：百万円)
	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	1,000	600
今回修正予想（B）	▲2,500	▲5,400
増減額（B－A）	▲3,500	▲6,000
※参考 前期実績	1,396	983

- ・特定の大口与信先の業績不振により、当該先に関連する与信関係費用が増加する見通しです。
- ・有価証券利息は、評価損の拡大を受けて、ポートフォリオを再構築のうえ、運用収益を改善し、その一部を評価損の解消へ充当するため、当初計画を下回る見通しです。
- ・営業人員の創出、中長期的な経費削減に向けて、店舗再編を予定しており、これに伴う減損損失を計上する見通しです。
- ・繰延税金資産の一部取崩しを予定しております。

仙台銀行		(単位：百万円)
	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	1,100	800
今回修正予想（B）	800	500
増減額（B－A）	▲300	▲300
※参考 前期実績	1,064	717

- ・有価証券利息は、評価損の拡大を受けて、ポートフォリオを再構築のうえ、運用収益を改善し、その一部を評価損の解消へ充当するため、当初計画を下回る見通しです。

1. 2022年度第2四半期業績予想（2）

- ・きらやか銀行の業績予想の修正要因は、経費削減に取り組む一方で、与信関係費用、有価証券利息減収、店舗減損、繰延税金資産取崩しが、当初計画と大きく乖離することが要因となっております。
- ・仙台銀行の業績予想の修正要因は、主に有価証券利息が当初計画と乖離することが要因となっております。

きらやか銀行 第2四半期業績予想修正要因

		計画比	内 容
中間純利益（当初予想額）		6億円	
増益 要因	貸出金利息	+0億円	
	経 費	+1億円	
減益 要因	与信関係費用	▲31億円	特定業績不振先へ計上
	有価証券利息	▲5億円	ポートフォリオ再構築
	店舗減損	▲6億円	店舗再編に伴う費用
	役務収益	▲0億円	
	法人税等調整額	▲20億円	繰延税金資産取崩し
中間純利益（今回修正額）		▲54億円	

仙台銀行 第2四半期業績予想修正要因

		計画比	内 容
中間純利益（当初予想額）		8億円	
増益 要因	貸出金利息	+0億円	
	役務収益	+0億円	
	与信関係費用	+1億円	
減益 要因	有価証券利息	▲7億円	ポートフォリオ再構築
	経 費	▲0億円	
中間純利益（今回修正額）		5億円	

2. 2022年度通期業績予想、配当予想、経営責任（1）

・当社グループは、下記の理由により、通期業績及び配当予想を下方修正いたします。

じもとホールディングス		(単位：百万円)	
	経常利益	当期純利益	
前回発表予想（A）	3,600	2,500	
今回修正予想（B）	▲800	▲4,000	
増減額（B－A）	▲4,400	▲6,500	
※参考 前期実績	4,486	2,585	

きらやか銀行		(単位：百万円)	
	経常利益	当期純利益	
前回発表予想（A）	1,100	700	
今回修正予想（B）	▲2,200	▲4,900	
増減額（B－A）	▲3,300	▲5,600	
※参考 前期実績	1,976	1,078	

仙台銀行		(単位：百万円)	
	経常利益	当期純利益	
前回発表予想（A）	2,700	2,000	
今回修正予想（B）	1,300	800	
増減額（B－A）	▲1,400	▲1,200	
※参考 前期実績	2,434	1,506	

【業績予想】

- ・きらやか銀行は、第2四半期で赤字決算を計上すること、有価証券利息が通期13億円の減収が見込まれることから、通期の当期純利益は▲49億円を予想しております。
- ・仙台銀行は、有価証券利息が通期18億円の減収が見込まれる一方、貸出金利息や役務利益の増加などにより、通期の当期純利益は8億円を予想しております。

【配当予想】

- ・じもとグループは、第2四半期及び通期にて赤字決算を予想していることから、普通株式の配当予想を、以下のとおり下方修正いたします。

	第2四半期末	期末	年間合計
前回予想	10円00銭	10円00銭	20円00銭
今回修正予想	7円50銭	7円50銭	15円00銭

【経営責任：役員報酬減額】

- ・業績予想及び配当予想の下方修正を踏まえ、経営責任を明確にするため、じもとホールディングス、きらやか銀行、仙台銀行において、役員報酬の減額を行います。

2. 2022年度通期業績予想、配当予想、経営責任（2）

- ・きらやか銀行の通期業績予想の修正要因は、第2四半期で赤字決算を計上すること、有価証券利息が通期で計画比13億円の減収が見込まれることによるものです。
- ・仙台銀行の通期業績予想の修正要因は、有価証券利息が通期で計画比18億円の減収が見込まれることによるものです。

きらやか銀行 通期業績予想修正要因

		計画比	内 容
当期純利益（当初予想額）		7億円	
増益 要因	貸出金利息	+2億円	
	経 費	+3億円	
減益 要因	与信関係費用	▲23億円	特定業績不振先へ計上
	有価証券利息	▲13億円	ポートフォリオ再構築
	店舗減損	▲6億円	店舗再編に伴う費用
	役務収益	▲1億円	
	法人税等調整額	▲19億円	繰延税金資産取崩し
当期純利益（今回修正額）		▲49億円	

仙台銀行 通期業績予想修正要因

		計画比	内 容
当期純利益（当初予想額）		20億円	
増益 要因	貸出金利息	+0億円	
	役務収益	+2億円	
	経 費	+0億円	
減益 要因	有価証券利息	▲18億円	ポートフォリオ再構築
当期純利益（今回修正額）		8億円	

3. グループ業績改善への取組み（じもとホールディングス）

- じもとホールディングスは、営業組織体制の統一と集約、SBI連携によるDXの推進、リスク管理態勢の強化を通じて、子銀行に対する経営管理態勢をさらに強め、グループ全体の業績改善を牽引してまいります。

強いリーダーシップでグループを牽引

営業体制

法人営業体制の統一

- ◆ グループが特化する業務（中小企業支援）の明確化、経営資源の集中
 - ◆ 審査ノウハウの共有、グループ内での効率化
 - ◆ SBIグループ及び新生銀行との連携深化
- 主力分野の中小企業支援体制を強化

個人営業企画のHD集約

- ◆ じもとホールディングスにおいてグループ戦略を企画・立案
 - ◆ グループでノウハウを集約・蓄積
 - ◆ SBIグループ及び新生銀行との連携をさらに深化
- 両行の個人営業対応力の向上とスピードアップ

DX（SBI連携）

SBI共通ATM

- ◆ SBIグループ提供の共通ATMへの移行を両行が決定
 - ◆ 新紙幣が発行される2024年頃導入
- グループ全体でコスト削減の見通し

経費システム

- ◆ SBIグループが提供する経費システムを両行で導入検討
 - ◆ インボイス制度を見据えての対応
- ペーパーレス化、業務効率化

リスク管理

信用リスク

- ◆ 適切で計画的な引当金管理
 - ◆ コロナの影響を受けている事業者の現況把握、経営改善支援
 - ◆ 温泉旅館業や観光サービス業の再生に向けたリスクテイク
- コロナ禍を踏まえた信用リスク管理強化

市場リスク

- ◆ リスク許容度の再設定
 - ◆ モニタリング指標追加による実効性のあるモニタリング体制の確立
 - ◆ SBIグループとの双方向のリスクコミュニケーション
- 有価証券ポートフォリオの再構築における市場リスク管理強化

3. グループ業績改善への取組み（きらやか銀行）

- ・きらやか銀行は、当行のアイデンティティである中小企業支援により特化し、コロナ禍の影響を受ける地元中小企業にさらに寄り添い貢献する態勢を再構築するため、営業戦略や店舗網等の組織再編等、抜本的改革に取り組んでまいります。
- ・併せて、経営体質強化のため、抜本的な経費削減、有価証券運用態勢の再構築に取り組み、じもとグループ及びSBIグループとの連携を強化することで、早期の業績回復と経営安定化を実現してまいります。

目指す姿

「中小企業支援」に特化

－ 真に顧客に寄り添い、本来の金融仲介機能を発揮 －

「変わらないもの」 = きらやか銀行アイデンティティ（私たちの想い）

本業支援を通して、地元の『中小企業』と『そこに働いている従業員の皆さま』から
喜んでいただき 地域と共に生きること

「変えていくもの」 = きらやか銀行のアクション

中小企業支援への傾注

抜本的な経費削減

有価証券運用態勢の再構築

営業戦略
見直し

本部組織
再編

店舗網
見直し

役員
報酬
削減

硬式野球部
無期限休部

物件費
削減

ポートフォリオ再構築
運用収益の一部、評価損へ充当
中長期的な評価損の解消へ

3. グループ業績改善への取組み（きらやか銀行）

- ・きらやか銀行は、コロナ第7波により影響がさらに長期化するなか、従前の営業体制及び営業戦略を抜本的に再構築し、コロナの影響を受けて支援が必要な中小企業への対応を質・量の両面で強化し、地域経済に貢献してまいります。
- ・具体的には、従前業務の大胆な取捨選択、店舗網見直しによる営業人員の創出と再配置、コロナ支援の専門部署の設置、営業組織体制のHD統一などを迅速に進めることにより、中小企業支援の実効性と融資残高の増強に取り組みます。

中小企業支援への傾注

営業戦略の見直し

- ◆多岐にわたる、従前の本業支援を大胆に取捨選択
- ◆マンパワーを中小企業支援に傾注、顧客接点強化
- ◆山形県・宮城県を重点エリアとして設定
- ◆重点エリアに人員投下、新規取引先、融資残高を増加

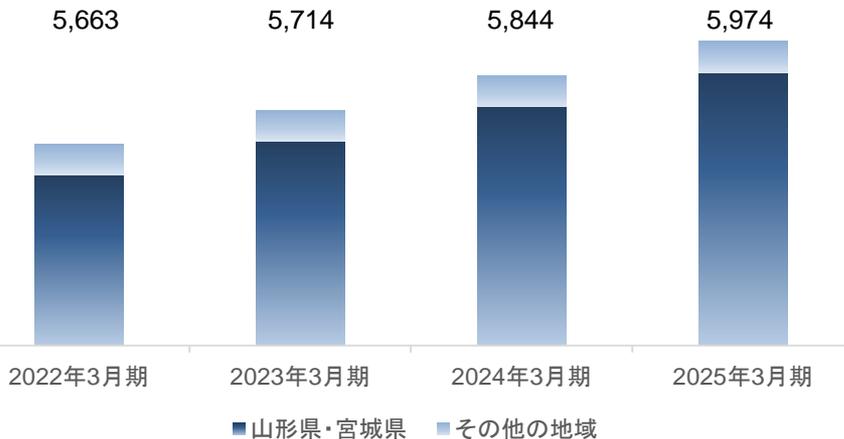
本部組織再編

- ◆企業支援部を新設
コロナ支援や事業再生支援を専門的に担当
- ◆法人営業・個人営業部門の組織体制をHD統一
グループノウハウの共有や効率化を実現

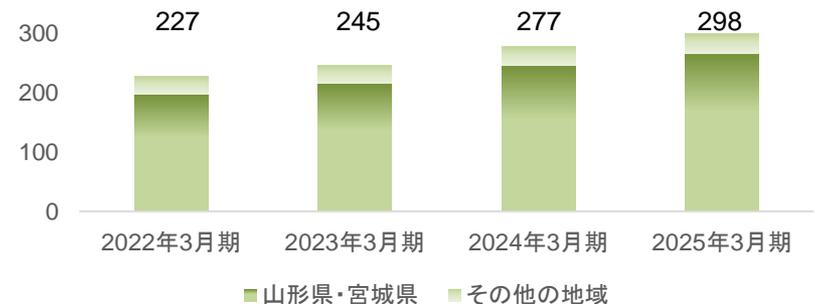
店舗網の見直し

- ◆計画的な店舗統廃合による合理化
中小企業支援の人員（累計78名）を創出

中小企業融資残高の見通し (単位：億円)



中小企業支援に向かう営業店人員の見通し (単位：人)



※本表の残高は政策融資等を除いております

3. グループ業績改善への取組み（きらやか銀行）

- きらやか銀行は、経営体質強化のため、抜本的な経費削減、有価証券運用態勢の再構築に取組み、じもとグループ及びSBIグループとの連携を強化することで、早期の業績回復と経営安定化を実現してまいります。

抜本的な経費削減

役員報酬削減

- ◆経営責任を明確にし全体で3割削減

2023年3月期▲0.3億円
2024年3月期▲0.5億円

物件費削減

- ◆物件費33項目を対象に削減

2023年3月期▲1.0億円
2024年3月期▲2.2億円

硬式野球部

- ◆活動を無期限で休部

※これまで継続して取り組んでいる経費削減

<人件費>

- ◆適正人員の見直しと人員配置の最適化

2022年3月期▲1.4億円
2023年3月期▲1.5億円

<物件費>

- ◆毎月役員会等の会議体にて実績管理を行い、コスト意識を醸成

2022年3月期▲1.8億円
2023年3月期▲2.3億円

有価証券運用態勢の再構築

<現状>

- ◆SBIグループと連携、信用力の高い海外ファンド保有
- ◆ファンド内で短期債へ切替え、評価損拡大を抑制

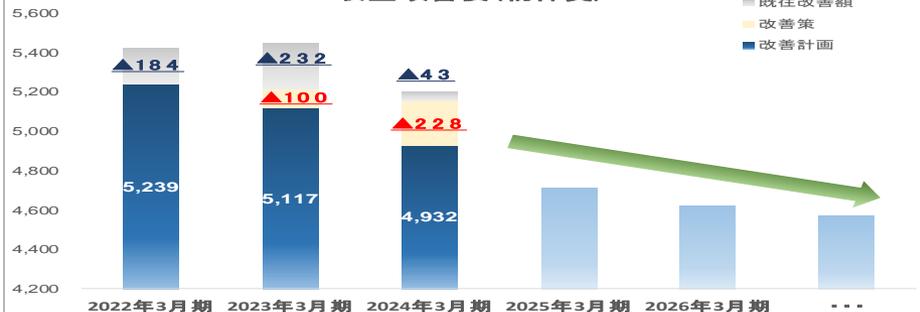
<方針>

- ◆ファンド内で再投資を実施、ポートフォリオを再構築
- ◆再構築による運用収益の一部を評価損へ順次充当
- ◆評価損の中長期的な解消へ

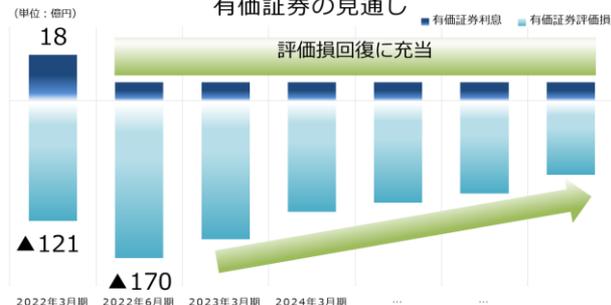
収益改善後(人件費)



収益改善後(物件費)

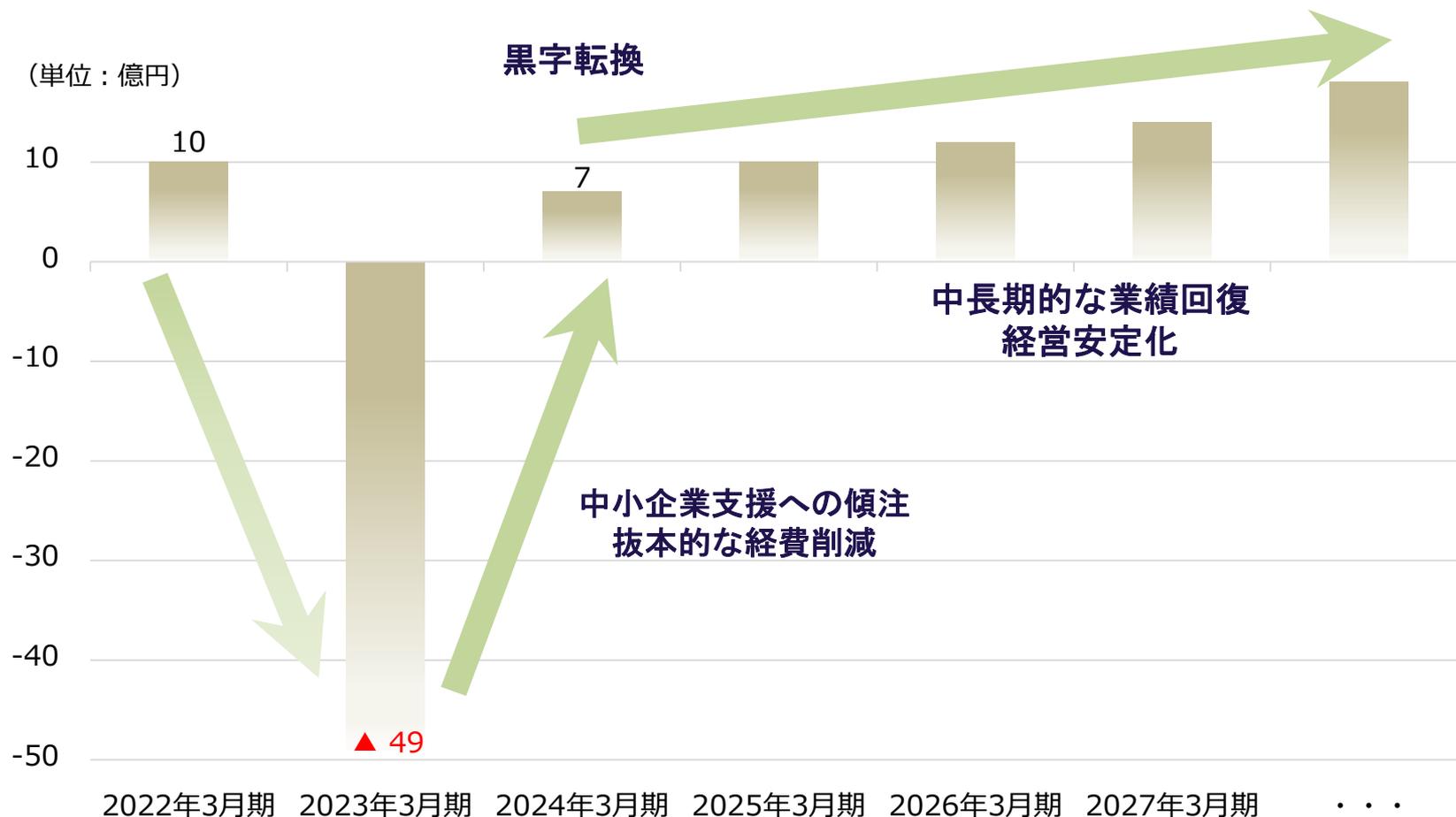


有価証券の見通し



3. グループ業績改善への取組み（きらやか銀行）

- ・きらやか銀行は、中小企業支援への傾注を進めることで中小企業貸出利息を増強するとともに、抜本的な経費削減に取り組むことにより、2023年度はV字回復を達成する見通しです。
- ・その後におきましても、中小企業支援への人員配置の進展による営業力向上、店舗再編の完了による経費削減効果など、今回の抜本的な収益改善策の効果が経年と共に増加し、中長期的な業績回復と経営安定化を実現してまいります。



3. グループ業績改善への取組み（仙台銀行）

- ・仙台銀行は、トライアングル戦略（本業支援、業務変革、経営管理）に更に磨きをかけ、顧客ニーズにスピーディーに対応することで、経営基盤の強化に繋げてまいります。また、有価証券運用態勢の再構築により、有価証券評価損の解消に努めてまいります。

トライアングル戦略を磨き上げ、経営基盤を強化

コア戦略の更なる推進

- ◆スピード対応による顧客基盤強化
- ◆オーダーメイド型融資による多様な資金ニーズへの対応
- ◆チャネルの拡充、強化による顧客ニーズへの対応

複合取引の拡充

- ◆SDGs取組支援サービスの体制強化
- ◆SBI連携による資産運用・相続対応強化

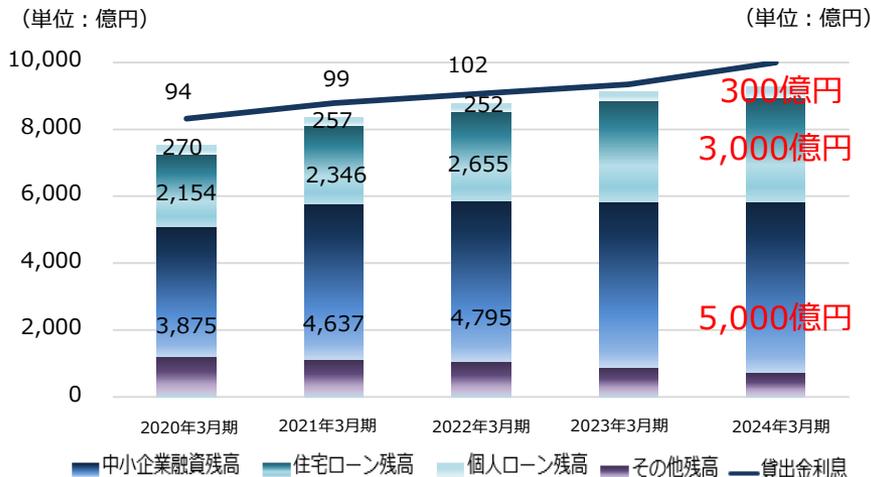
経費削減

- ◆業務プロセス見直しを伴う効率化

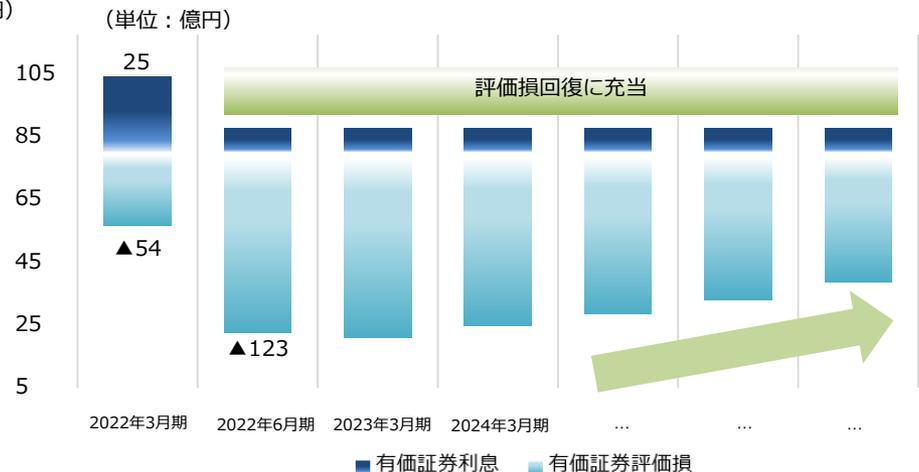
有価証券運用態勢の再構築

- ◆ファンド内で短期債への切替、評価損拡大を抑制済
- ◆今後、ファンド内で再投資を実施
- ◆運用収益一部を評価損の中長期的な回復へ順次充当

貸出金の見通し

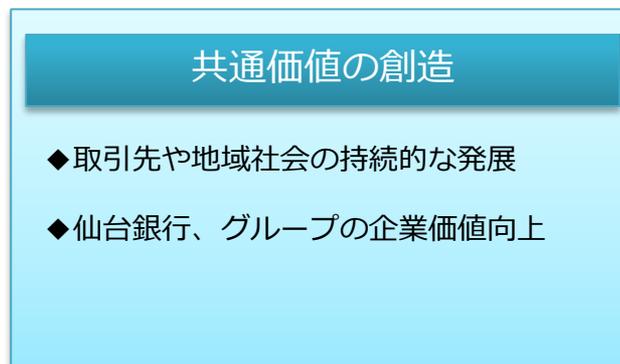
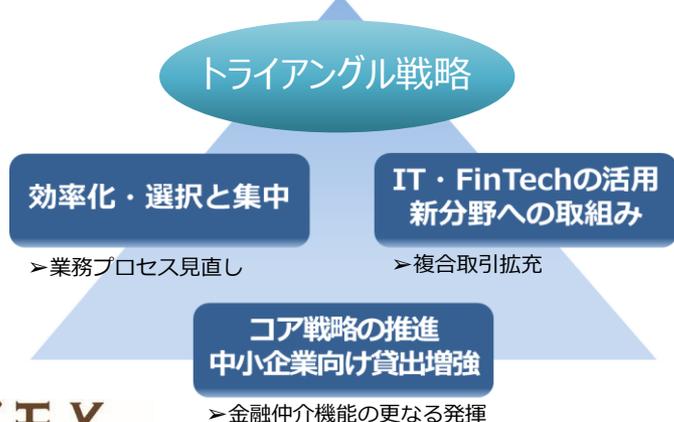
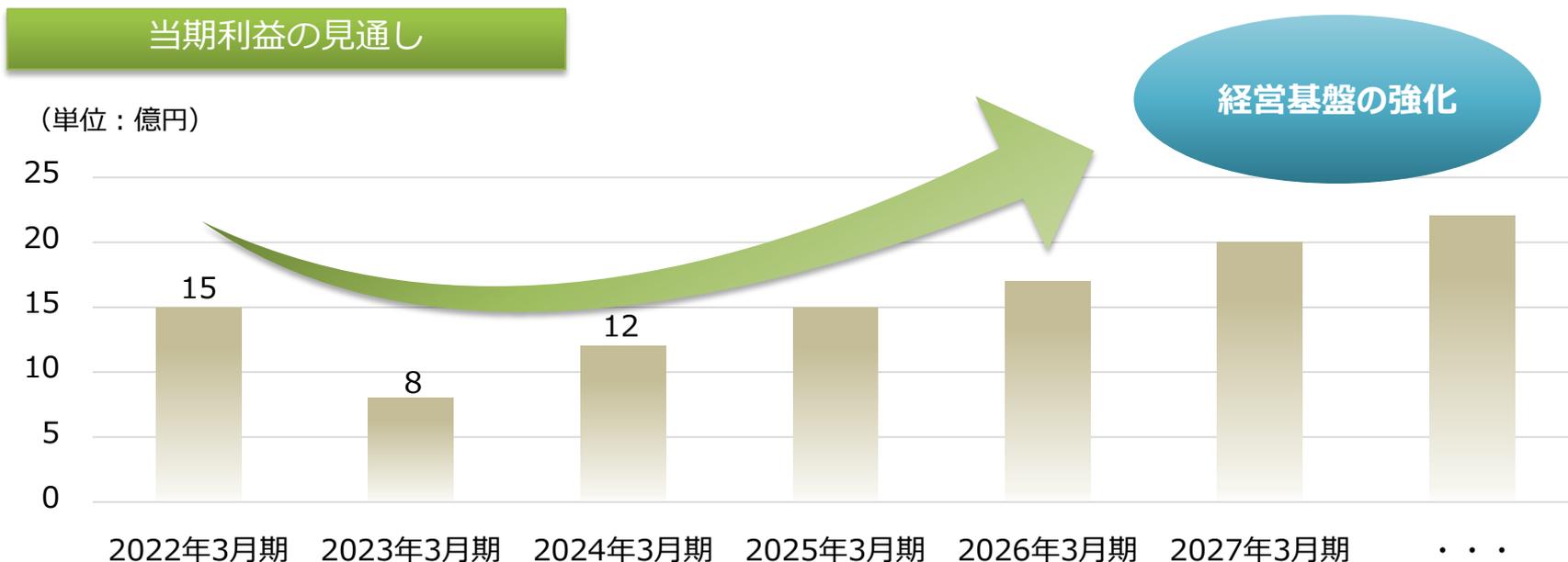


有価証券の見通し



3. グループ業績改善への取組み（仙台銀行）

- ・仙台銀行は、有価証券利息が減収見通しですが、本業による収益力の向上により、中長期的に収益の改善をめざしてまいります。



4. 2023年度収益見通し

- ・当グループは、経費削減や営業体制の再構築をはじめとする抜本的な収益改善策に迅速に取り組むことで、2023年度は黒字決算（V字回復）を目指してまいります。
- ・また、中長期的な視点での改善策を継続して実施し、グループ全体の中長期的な業績向上に取り組めます。

きらやか銀行 収益見通し

	2023年度 見通し	2022年度 対比
貸出金利息	113億円	▲0億円
有価証券利息	8億円	+1億円
役務収益	34億円	+0億円
経費	114億円	▲3億円
コア業務純益 (投信解約益除く)	31億円	+4億円
経常利益	12億円	+33億円
特別損失	-億円	▲6億円
法人税等調整額	0億円	▲18億円
当期純利益	7億円	+56億円
<与信関係費用>	17億円	▲27億円

仙台銀行 収益見通し

	2023年度 見通し	2022年度 対比
貸出金利息	112億円	+6億円
有価証券利息	6億円	+0億円
役務収益	29億円	+0億円
経費	100億円	▲0億円
コア業務純益 (投信解約益除く)	23億円	+5億円
経常利益	18億円	+5億円
特別損失	0億円	+0億円
法人税等調整額	-億円	▲0億円
当期純利益	12億円	+3億円
<与信関係費用>	4億円	▲0億円

本資料に記載されている業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。

実際の業績は、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総 合 企 画 部

TEL : 022-722-0011 (代表)
<https://www.jimoto-hd.co.jp>